



JAPIC会長
進藤 孝生
Kosei SHINDO

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council: JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在43業種約220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学交流のためのプラットホーム形成等活動を行っています。

講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を開設します。

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボラティリティ化などに伴い、グローバル化が着実に進展する一方、100年に一度と言われる未曾有のコロナ禍や米中両国の対立、更にはロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ問題等によって、今や分断の危機に直面しています。

このような激変する世界に立ち向かっていく学生の皆さんには、「人・社会・国に貢献するとは? 国際社会に対して果たすべき役割とは?」という高い課題意識を持って研鑽に励むことを期待します。その為にはこの講義で説く『社会基礎学[グローバル化人材に不可欠な教養]』を習得することが大変重要であると考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何かを探索し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

学生に期待すること

本リレー講義の副題である、「激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか?」について、第一線で活躍する社会人講師の話聴き、強い関心と好奇心を持って考えて下さい。そして、先の見通しづらいグローバル社会で自ら何ができるか、そのためには何が必要か、積極的に学び、考えることを期待します。

主催／神戸大学 産官学連携本部
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

サポート／神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先／神戸大学研究推進部連携推進課 連携推進グループ

電話番号: 078-803-5427

Email: ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

JAPIC連携 産業界・官界トップリーダーによる

連続リレー講座 2025

激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか?

これから社会に出る学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。

今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身に付けてほしいのか?

土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

科目名 社会基礎学〈グローバル人材に不可欠な教養〉

開講時期 令和7年度 第2クォーター 土曜日10:40▶16:40 全6回
(初日と最終日は13:20~16:40)

科目区分 教養科目(総合系)[2単位]

登録受付締切: 5月9日(金)
定員150名

詳細(履修登録等)



世界に挑め!!



社会基礎学【2025年度】

第1回 6/14(土)

13:20-16:40

【導入講義】 連続リレー講義の意味・意義と狙い

PD-コーディネーター

JAPIC 常務理事

林田 康洋

プロフィール：京都市出身。1993年新日本製鐵（現日本製鉄）入社。営業（厚板）、支店総務等を担当。勤務地は、堺製鉄所（大阪）を皮切りに、東京、名古屋、大阪を経験。最後の5年間はプロジェクト開発部に海外インフラ案件を担当。東南アジア、南アジア、中東等にも出張。2022年からJAPIC常務理事。趣味は、山登り、京都探訪（京都検定2級取得）、読書、少しだけ乗り鉄。

PD-パネリスト

住友生命保険相互会社 取締役代表執行役専務

栄森 剛志

プロフィール：1964年兵庫県尼崎市生まれ。1987年に神戸大経営学部を卒業後、住友生命保険相互会社に入社。海外駐在、企画室長、山梨支社長、人事部長、営業企画部長等幅広く職務を経験。2017年から2023年まで執行役として海外事業を担当。米子子会社の取締役も兼ねる。2023年より取締役代表執行役（事務サービス部門担当）。趣味はスキー、ゴルフ、読書。★本学出身者

第2回 6/21(土)

10:40-12:10

経済安全保障政策について

昨今の地政学上的変化を踏まえた経済安全保障政策について、解説を行います。具体的には、経済安全保障推進法に基づくサプライチェーンの強化策、デュアルユースを前提とする研究開発の推進、我が国の基幹インフラの保護、特許保全の取組を説明いたします。併せて、2025年5月に施行されるセキュリティクリアランス制度について、解説いたします。

内閣官房国家安全保障局／内閣府 経済安全保障担当 内閣審議官

佐々木 啓介

プロフィール：1993年4月通商産業省入省、1999年10月ハーバード大学 US-Japan Program 調査員、2000年5月カナダ政府外務貿易省、2001年6月経済産業省、2024年7月現職。愛知県出身。

第3回 6/28(土)

10:40-12:10

モビリティ革命と MaaS（マース）

モビリティ革命の本命といわれる「MaaS: Mobility as a Service（マース）」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

一般財団法人計量計画研究所

理事 兼 研究本部企画戦略部長

牧村 和彦

プロフィール：1990年（一財）計量計画研究所（IBS）入所、東京大学 博士（工学）。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティ・デザイナー、代表的な著書に、「MaaSが都市を変える。学芸出版（不動産協会賞受賞）」、「Beyond MaaS～日本から始まる新モビリティ革命（日経BP、共著）（交通図書賞他受賞）」等多数。

パネルディスカッション

激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか？
これから社会に出る学生は何を学び、何を身につけるべきか？

PD-パネリスト

双日株式会社 執行役員 広報、IR、サステナビリティ推進担当本部長

遠藤 友美絵

プロフィール：1991年日商岩井（現双日）入社。キャリアの多くはIR室で、株式市場との対話・リレーション構築に従事。海外研修として2008年米国に渡り、2010年5月Golden Gate大学マーケティング修士課程修了。双日IR課長、人事総務部グローバル・ダイバーシティ推進課長、IR室長を経て、2021年4月執行役員、2024年4月より広報、IR、サステナビリティ推進担当本部長。

導入講義

バリュースクール／産官学連携本部 准教授

鶴田 宏樹

プロフィール：神戸大学自然科学研究科修了。博士（農学）の学位を取得後、神戸大学共同研究開発センター（現・産官学連携本部）の助手、准教授を経て、2020年から現職。趣味は、音楽活動、音楽理論。座右の銘は「克己制全」。大阪府生まれ。★本学出身者

15:10-16:40

リテイルメディア時代の到来

ECやデジタルを活用し実店舗の機能を拡張させる試みは米国を中心に加速した。GAFAに顧客を奪われた既存リテラーは、今日では機能を劇的に変容させ再成長の軌道に乗り始めている。現在の米国のリテール企業やファミリーマートの最新戦略も交えながら解説する。

株式会社ファミリーマート

代表取締役社長

細見 研介

プロフィール：1962年大阪生。神戸大学卒業後、伊藤忠商事入社。2014年ブランドマーケティング部門長。2017年食品流通部門長。その後、新設の第8カンパニープレジデントとしてリテイル関連の新ビジネスを指揮。2021年ファミリーマート代表取締役社長に就任。 趣味：国内外の街ブラ ★本学出身者

15:10-16:40

日本鉄鋼業の事業戦略と
カーボンニュートラルへの対応

鉄鋼業のグローバル競争は激化している。とりわけ、地球温暖化対策など地球環境に対する社会的要請の高まりを背景として、カーボンニュートラルに向けての産業界の潮流は急激に変化している。今後、日本の鉄鋼業がこうした国内外の情勢変化に柔軟に対応して将来に亘ってグローバル競争を勝ち抜くための課題と方策について考える。

日本製鉄株式会社

参与 大阪支社長

矢ヶ部 昌嗣

プロフィール：1992年、新日本製鐵（現 日本製鉄）入社。人材開発室長を経て、2018年名古屋製鉄所工程業務部長、21年厚板・建材営業部長、23年参与大阪支社副支社長、2024年4月より現職。これまでのキャリアは人事、営業、生産管理等、多岐に渡る。佐賀県出身。好きな言葉は、メンター・福島正伸氏の「決して諦めない人の成功率は100%。なぜならできるまでやり続けるから」。

第4回 7/5(土)

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて具体的にみた上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券株式会社 取締役 共同チーフ・アドミニストレイティブ・オフィサー

吉村 隆

プロフィール：1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券㈱ コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター、2024年10月現職に就任。 趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：銘天銅恢復欲にして漏らさず

10:40-12:10

アントレプレナーシップについて考える

近年はスタートアップ企業への就職なども増加し、起業というキャリアも一般化している。日本経済発展の観点からも、社会からのスタートアップ企業や起業家への期待が高まっている。起業家に必須のアントレプレナーシップは起業のみならず、今後社会で活躍するために必須の精神である。この講義ではスタートアップ企業創業の当事者が、その創業、成長のストーリーを中心にアントレプレナーシップ（起業家精神）について講義する。

株式会社ベイフォワード

代表取締役

谷井 等

プロフィール：1996年神戸大学経営学部卒。1996年日本電信電話（株）入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天（株）に、1社を上場の上、ヤフー（株）に売却。会社の設立から買取、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年（株）ベイフォワードを設立。2017年よりセミリアル2年間海外を放浪。★本学出身者

第6回 7/26(土)

13:20-14:50

総 括

JAPIC 専務理事

丸川 裕之

プロフィール：1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵（現 日本製鉄（株））入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物（主として学校）巡り、東西の美術館鑑賞、読書（日本の古典、国内外の探偵・推理小説）。

15:10-16:40

試 験

13:20-14:50

ビジネス教養としての半導体

スマホやPCをはじめとした電子機器、自動車や電車、インターネット通信を代表とする社会インフラなど、半導体は今、私たちの身の回りであらゆるものに使われており、生活は半導体によって支えられているといっても過言ではありません。半導体とはどのようなものか、半導体市場規模の大きさと今後のAI時代に与える影響について、半導体が人々の生活や産業インフラに欠かせないものになるまでの進化の歴史といっしょに学んでいきます。

Matter Venture Partners 日本代表

（株式会社チップワンストップ創業者、前代表取締役社長）

高乗 正行

プロフィール：1993年神戸大学理学部卒。2004年神戸大学大学院経営学修士（MBA）。1993年日商岩井（現 双日）に入社。米国駐在等を経て、2001年チップワンストップを創業。2004年東証券マーズ上場、2011年世界最大の半導体商社に売却。2023年まで同社日本代表兼米国本社副社長。現在シリコンバレーのベンチャーキャピタルMatter Venture Partnersの日本代表。★本学出身者

15:10-16:40

国際協力の今を考える

世界ではウクライナ侵攻、パレスチナ・イスラエル紛争が続き、それに起因した食料・エネルギー危機等の問題が生じている他、気候変動や貧富の格差拡大等も生じる等、近年の国際情勢は混迷を来している。一方、日本でも東日本大震災や能登半島地震等により甚大な被害が生じている他、世界情勢を受け経済が悪化、また人口減少や少子高齢化等様々な問題を抱えている。このような中で日本が何故国際協力を行うのか等一緒に考えたい。

独立行政法人国際協力機構

広報部参事役

村田 佳代

プロフィール：聖心女子大学卒。海外経済協力基金入社後、国際協力銀行を経て2008年よりJICA勤務。総務部、企画部の官房部署に加え中国、南アジア（バングラデシュ、スリランカ）、中央アジア（ウズベキスタン、キルギス、カザフスタン）、中東・欧州（エジプト、チュニジア、トルコ）のODA事業に幅広く従事。チュニジアに赴任しTICADにも参加。2023年12月より現職。

13:20-14:50

東アジア情勢と日本外交

日本をとりまく東アジアにおける安全保障環境の中で、日本の外交政策はどうあるべきか、考察する。

外務省

アジア大洋州局長

金井 正彰

プロフィール：2025年1月より外務省アジア大洋州局長。国際法局長、国際文化交流審議官を歴任。在米国大使館、在英国大使館に勤務経験あり。

15:10-16:40

経済成長の条件とは

日本経済は長いデフレのトンネルから脱しつつある。この先、順調に回復軌道に乗っていただけるのか。足元の企業収益、株価、金利、為替、賃金、通商といった経済事象から探りたい。海外に目を向ければ、米国で再びトランプ政権が誕生し、保護主義的な政策の志向が強まっている。経済活動に伴う環境への負荷を軽減するという国際的な共通理解は揺らいでいる。安定的な経済成長を阻む要因についても考察したい。

読売新聞東京本社

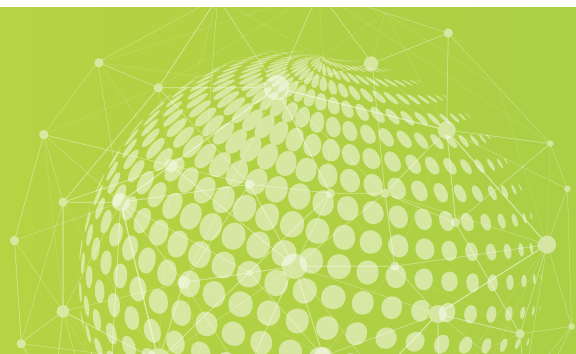
経済部長

小野田 徹史

プロフィール：1993年読売新聞入社。川崎支局、横浜支局、新潟支局を経て2000年から東京本社経済部。取材した業界は証券、自動車、造船重機、建設、不動産、銀行、流通、食品。公的機関は国土交通省、財務省、日本銀行を担当した。財政の取材歴が長い。2022年6月から経済部長。趣味は釣り。和歌山県出身。

社会基礎学 推薦文

過去の受講生より



国際人間科学部 1 回生

01

この講義は通常の大学の講義と全く異なっています。コマ数が多いというのも一つの違いではありますが、一日に3講義受講することには大変さを感じる日もありましたが、受講し終えた時には確実にその大変さよりも受講してよかったという思いを心から感じられる講義です。人生で様々な経験をされ、自分の強い考えを持った社会の第一線で活躍されている方々による分野にとらわれない、これこそが教養であると感じられるような講義は私にとって非常に刺激的でした。講義時間だけでなく質疑応答までの本当に濃い時間をみなさんにも体験していただきたいです。

医学部医学科 1 回生

02

将来の職業や理想の将来像がある程度決まっている学生にとっても、社会基礎学は有意義な講義になると思います。私は国際NGO・NPO団体の医療に興味があり、国際社会の動向を学びたいと思ったため、この講義を受講しました。医療と社会は密接な関係を持っています。医療界だけでなく国際社会で通用する医療従事者になるために、この講義は良い機会であると思います。講師の方々の経験は簡単に模倣できるものではなく、ここでしか得られない学びが多くありました。一見、興味がないと感じる分野であっても、講義を通して自分の視野を広げることができました。土曜日の講義は大変そう、国際社会の話は難しそうと感ずるかもしれませんが、90分が短いと感じるほど楽しく学べるので、ぜひ履修してほしいです。

農学部 1 回生

03

この授業では、普段関わることの無い色々な分野の第一人者のお話を聞くことができます。私たち学生目線ではなく、今社会で生きている先輩方の目線で、これから求められる人材の姿であったり、考え方があったりを知り、新たな視点を得ることができます。また、これまで生きてきた人生経験や、そこから得られた考えというのは、将来を考える上で大きな材料となりました。自分の専門とは大きく離れた分野のお話でしたが、今社会でおきていることや、必要とされている能力を、現場にいる方々から聞くのは、本当に良い経験になります。専門分野とは離れているからこそ、受けて欲しい講座だと思います。

理学部 1 回生

04

私がこの講義を受講することにしたのは、この講義のパンフレットを見て、連続にリレーして講義をしていくことに面白さを感じたからです。また、私は、将来の夢を明確に決めていなかったため、少しでもこの講義の中で、自分のしたいことが見つかるきっかけになればと思い受講しました。パンフレットに目を通した時から知っていましたが、理学部に所属している私にとって深く関係のある内容はなく、そのため、講義では難しい言葉や知らない概念が出てきて理解するのが大変でした。しかし、それは新しく様々なことを自分は学べたということだと思います。この講義は、講義をしてくださる方の話している内容を聞くだけではなく、その内容を受けて自分なりの考え方を養うこともできます。具体的には、講義終了後の質疑応答や試験です。質疑応答では、他学部の人の質問で、「そういう視点や考え方を持っていなかった」と気付かされることが多くあり、いい刺激になります。何よりこの講義で一番良かったことは、各分野のスペシャリストが講義をしていく中で、前の方が話していたことと今の方が話していたことで繋がる瞬間があることです。少しでも興味のある方は、この貴重な講義をぜひ受講してみてください。

工学部 1 回生

05

私は4月の最初の授業でパンフレットをもらい、この講座の存在を知りました。パンフレットを眺めてみると、既に興味・関心を抱いていた分野のお話から、聞いたことのない言葉についてのお話まで、多種多様な講義が行われると知り、大学に入りたての時期は、専門分野を超えたお話を聞くのにちょうどいい時期だと考え、この講座を受講しました。いざ授業を受けてみると、先生方は分かりやすいスライドや実体験をもとに、難しい話でも分かりやすく説明してくださいました。また、周りの受講生は多くが、積極的に先生のお話を聞いてメモを取り、質疑応答の時間に質問をしていました。そのような勉強熱心な人々が集まる刺激的な空間にしていると、私も自然と、複雑に入り組んだ社会問題についてもっと知りたい気持ちになり、将来働くうえでどのような能力が求められるのかを複眼的に考えるようになりました。社会の最前線で働いておられる方々のお話をこれほどたくさん、大学生の時期に聞く機会はありません。将来何をしたいか決めている人も、まだ決めていない人も、ぜひこの講座を受講してみてください。自分の将来を考える上で新たな視点・考え方を得ることができると思います。

経済学部 1 回生

06

私は経済学部の学生ですが、これから先、経済学だけに焦点を絞って勉強するのはもったいないと感じていました。今のうちに自身の可能性を広げておきたいと考え、この社会基礎学を受講しました。私のような考えを持っている方に、社会基礎学はお勧めです。社会基礎学の講義内容は多岐にわたるため、面白いと感じる分野が新たに見つかるかもしれません。社会基礎学の最も良いところは、各講義の最後に必ず質問コーナーが設けられている点です。世の中の第一線で活躍されている方々と話をできる機会はとても貴重だと思います。その話を通して、あなたの人生観が変わることもあるでしょう。私も、特に関心をもったいくつかの講義において質問をし、その分野の実情について、その道のプロから伺うことができ、とても良い機会であったと感じています。ぜひ、社会基礎学を受講して、あなたの可能性を広げましょう。

経営学部 1 回生

07

私が社会基礎学の授業を履修しようと思った理由は、様々な分野で活躍されている方の講義を受けることで見識を深めたいと考えたからです。また、グローバル化社会といっても具体的に日本の様々な業界がどのように関わっているかを知りたいと考えたのも理由の一つです。そして実際に講義を聞く中で、私の専門分野以外のことについて多面的に学び、世界では何が起きていて今私自身がどう行動するべきであるかを学べる貴重な経験だったと考えています。仕事をする上での実体験談やメンタル面での考え方など様々な経験をしたらこそその話を聞くことができ、とても実りある講義でした。毎回の講義後には学生が質問をする時間が設けられており、様々な学部の学生が集まっているからこそ意外な質問であったり、質問のレベルの高さに非常に刺激を受けました。土曜日に授業を長時間受けることは大変ですが、必ずハイレベルで濃い時間を過ごせると 생각합니다。まだ将来の夢が明確に定まっていない人、教養を身に付けたい人、何か成長してみたい人はぜひこの講義を履修することをおすすめします。

医学部保健学科 1 回生

08

世界で急速にグローバル化が進んでいます。そんな中、グローバル化の最先端を進んでいらっしゃる講師の方々からお話を聴けるのはとても貴重な機会であり、そこがこの講義の最大の魅力だと思います。なかなかほかの講義では聞くことの出来ない分野のお話が数多くあります。また、12回の講義でそれぞれ他分野の話を聞くことができるため、比較をして多角的なものの見方をすることが出来ました。今まさに世界や日本で起こっている問題の事をしっかり理解することが出来るのでこれからの医療従事者として、常識として知っておくべきことがこの講義には沢山詰まっています。

法学部 1 回生

09

この講義の存在を知ったとき、様々な分野で活躍されている方々から話を聞けることで自分の視野を広げられるチャンスなのではないかと思い、履修を決めました。授業を受ける中で、今までの自分にはなかった考え方や価値観を持った方々からのレクチャーは私の心に強く残りました。少し難しいと感じる話もありましたが、普段の生活ではほとんど考えたことのないトピックが取り上げられて新鮮に感じることもありました。個人的なことではありますが、この講義の中で「世界は日本の大ファンです」という言葉に強く感銘を受けたので、自分の目で確かめるべく来年に留学することを考えています。自分の将来の幅を広げられるチャンスがこの講義にはたくさんあります。様々な分野の最前線で活躍されている素晴らしい方々から話を聞ける機会はめったにないことだと思うのでぜひ多くの方に受講していただきたいと思います。

文学部 1 回生

10

あなたは街を歩いているとき、何を考えていますか？ 目的地までの道順、明日提出しなければならない課題、今日の夕食……。様々な答えがありますが、おそらく国際社会に対する戦略について考えることは無いでしょう。私はこの授業を受けた後、街を歩きながら国際社会に対する戦略について考えるようになりました。普段何気なく利用していた店が、何気なく歩いていた道路が、何気なく見ていた壁の色が、国際社会に対する戦略に基づいたものだとなったとき、私の世界に対する解像度は大きく上がりました。もしこれを読むあなたがこのような経験をしたいならば、この授業を強くおすすめします。もちろん全ての授業を完全に理解できるわけではありません、正直合わないなど感じる先生もいらっしゃいました。しかし知ることは変わることであり、変えることです。たとえ理解できなくても、受け入れられなくても、知ることには無上の価値があります。これを読むあなたにも、この授業を通じて知り、変わり、そして変える人間になってほしいと考えます。

海洋政策科学部 1 回生

11

海洋政策科学部では学ぶことの少ない分野のことを学べるように感じたのでこの講義を受けました。講義では、先生方の仕事についてはもちろん、将来を見据えた課題や、それに対する取り組み、考え方や価値観のお話など、生の声を聞くことができました。最前線で活躍する方々だから聞くことのできる話も多く、様々な視点から、現状や将来のことを聞くことができました。また、海洋政策科学部とは全く関係のない分野に思える分野でも繋がりがあることを実感しました。そのような面では、今勉強していることが、どのように社会に役立つのかもわかりました。様々な知識をつけたり、見識を広げるきっかけになったと思うので、この講義を取って良かったです。